

# 東海大学 vs 平成国際大学

4月28日(日)  
11:30K.O.  
荻野

3連敗を喫してしまった東海大と、1勝2敗の平国大との対戦。東海大としては、昨季平国大に大勝した同じ会場で浮上のきっかけをつかみたい。

その東海大は前節、東学大に1-2で敗れた。初戦、第2節に比べ失点は減ったが、第2節と同様、退場者を出したプレーがきっかけで勝ち越し点を許しての敗戦。まずは90分、しっかり戦える状況に持ち込むことが第一だ。東学大戦は、試合開始直後の決定的なピンチを凌ぎ、ボールを持たれながらも得点を許さず、後半に入り56分にショートカウンターから先制点を奪った。しかし、その直後から激しくなった東学大の攻撃に押され、CKから同点弾、そしてファールでPKを与えて逆転弾を浴びた。MF湯川純平(3年)の出場停止は痛い、FW廣瀬勇人(4年)、MF森田努(2年)らが攻撃を活性化しており、失点を減らしつつ攻撃で先手を取りたい。

対する平国大は、第2節で今季初勝利を挙げたが、前節は神大に1-3で敗れてしまった。神大に主導権を握られ59分に先制点を許した中、少ないチャンスを狙って一度は同点に追いついたが、同点弾の4分後に勝ち越し点を奪われ、流れを引き寄せることはできなかった。前半は無失点で抑えたものの、やはり徐々に攻めどころ

を突いてくる昨季1部チームの力に耐え切れず。リードを許したあとは攻撃的に攻めたが、逆に追加点も許した。「(相手のボールの)出どころにアプローチにいけない。若いチームなので一つひとつが成長につながると思う」(西川誠太監督)。内容は徐々に上向きではある。昨季、大敗を喫した東海大の攻撃を抑えたい。

<出場停止>湯川純平(東海大)  
<昨年の対戦>前期/東海大6-1平国大、後期/東海大3-1平国大

東海大		平国大	
39. 小野	14. 塩田	32. 堀越	13. 竹内
7. 水橋	13. 森田	5. 鎌田	33. 福嶋
29. 椎橋	10. 廣瀬	9. 堀越	1. 小池
	11. 峯	18. 星子	6. 本田
34. 羽毛			2. 須藤
3. 小山	37. 北原	8. 増田	16. 増田
5. 元田			

# 東京学芸大学 vs 青山学院大学

4月28日(日)  
11:30K.O.  
麻溝

2連勝で白星が先行した東学大と、逆に2連敗の青学大との対戦。序盤の流れと現在のムードは対照的だが、中盤の主導権争いが勝負の鍵となりそうだ。

東学大は前節、東海大に対し2-1で逆転勝利を収めた。試合開始直後に2度ほど決定的なチャンスをつくりながら決めきれず、前半は攻めながらも得点につながらない嫌な流れになっていただけに、西園聡史監督も「ああいうところを決めておかないと苦しくなる」と反省しつつ、攻め込む姿勢は崩さず数多くのセットプレーのチャンスを奪い、DF脇本晃成(2年)の3試合連続ゴールとなるCKからの得点につなげた。先制点を許したシーンはショートカウンターへの対応が遅れたが、気落ちせず8分後に追いつき、最後はドリブルで仕掛け続けたMF茶島雄介(4年)がPKを奪い自ら決めた。初戦こそ東国大に敗れたが、その後は着実に2得点ずつを記録している東学大。接戦に競り勝てれば波に乗れそうだ。

対する青学大は、初戦こそ大勝したものの連敗を喫した。前節は朝鮮大と対戦し、結果的にはロスタイムに逆転弾を浴びての敗戦だったが、シュート数を見てみると3-13という青学大らしくない試合内容。宮崎純一監督も「力不足だった。勝負に対する準備や気持ちで、相

手の方が上に立っていた」と反省の弁だった。攻撃の面でボールを保持しながら、朝鮮大の早いプレッシャーを受けて失う場面が多く、シュートという局面まで持ち込むシーンを作り出せなかった印象だ。それでも先制点を奪ったところまではよかったが、相手の早いプレスへの対応は最後まで修正できず。「ボールを保持する時間をつくるために、チャレンジする勇気を持つことも必要」(宮崎監督)。東学大に対しどれだけ主導権を握れるか。  
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東学大		青学大	
5. 廣木	18. 久保	18. 関谷	3. 早田
4. 脇本	7. 山崎	28. 伊藤	16. 京谷
15. 菅		34. 角宮	6. 高山
12. 須賀	10. 茶島		12. 山田
	2. 大里	33. 佐藤	15. 水島
	9. 岡	23. 本城	
	8. 佐々木		2. 久保
28. 吉田			

\* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています\*

## JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦

**if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM**  
Division2 2013-NO.4



編集:五味亜矢子 印刷:関東大学サッカー連盟 協力:関東大学サッカーサポーターズクラブ

### 東国大唯一の3連勝、東農大も初勝利!

JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦 2部リーグは序盤の第3節までを終え、駒大との連勝チーム同士の対決を制した東国大が、関東2部リーグ初挑戦ながら、ただ1チーム全勝を守るという展開。東農大も2連勝の関学大を破って今季初勝利を挙げ、序盤戦は都県リーグからの昇格チームが存在感を見せている。一方、昨季1部の神大と東学大は、それぞれ平国大と東海大を破って2勝目を挙げた。また、1勝1敗同士の法大と拓大の対戦は拓大が2-1で勝利、青学大と朝鮮大の対戦は朝鮮大がロスタイムに勝ち越し、今季初勝利を挙げた。

ニューフェイスがいきなり首位に立つという波乱含みの序盤戦となっている2部リーグだけに、今季も混戦の予感だ。しかし、3試合を

得点ランキング	アシストランキング
3: 山本 大貴(駒大) 小牟田洋佑( ) 脇本 晃成(東学大)	2: 佐伯 拓磨(東国大) 平野 篤志(駒大) 茶島 雄介(東学大) 今野 順(東農大) 恵 龍太郎(青学大)
2: 全11名	1: 全31名
1: 全31名	1: 全31名

こなし、序盤の反省も含めこれから徐々に各チームの完成度も増していくだろう。新鋭校の快進撃がどこまで続くか、他チームの追い上げや巻き返しはどうか、注目の中盤戦に突入だ。

### JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第3節終了時)

順位	2部	東国大	駒大	関学大	神大	東学大	拓大	東農大	青学大	法大	平国大	朝鮮大	東海大	勝数	負数	得点	失点	得失差	勝点	
1	東国大		100	5/5	100	201	5/3	未定	未定	4/27	5/26	5/12	5/19	3	0	0	4	1	3	9
2	駒大	0●1		4/28	5/26	5/19	5/5	5/3	401	未定	5/12	未定	401	2	1	0	8	3	5	6
3	関学大	フクアリ	BMWス		未定	5/25	未定	0●3	5/3	5/19	300	400	5/12	2	1	0	7	3	4	6
4	神大	0●1	東海大G	未定		未定	5/19	301	5/6	5/12	301	4/28	5/4	2	1	0	6	3	3	6
5	東学大	1●2	朝鮮大G	青学大G	未定		5/11	201	4/28	未定	5/5	5/3	201	2	1	0	5	4	1	6
5	拓大	千葉東総	荻野	未定	青学大G	味スタ西		4/27	5/25	201	2●3	100	未定	2	1	0	5	4	1	6
7	東農大	未定	保土ヶ谷	300	1●3	1●2	法大G		5/11	5/5	未定	5/19	5/26	1	2	0	5	5	0	3
8	青学大	未定	1●4	味フィ西	三ツ沢	麻溝	青学大G	たつのこ		401	5/19	1●2	未定	1	2	0	6	7	-1	3
9	法大	法大G	未定	東海大G	法大G	未定	1●2	たつのこ	1●4		5/3	5/26	402	1	2	0	6	8	-2	3
10	平国大	朝鮮大G	法大G	0●3	1●3	たつのこ	302	未定	青学大G	保土ヶ谷		未定	4/28	1	2	0	4	8	-4	3
11	朝鮮大	東海大G	未定	0●4	三ツ沢	江戸陸	0●1	朝鮮大G	201	朝鮮大G	未定		5/6	1	2	0	2	6	-4	3
12	東海大	東海大G	1●4	東海大G	荻野	1●2	未定	東海大G	未定	2●4	荻野	たつのこ		0	3	0	4	10	-6	0

体育会学生のための  
**リクナビ就職エージェント**

**勇気は、努力がつくってくれる。**

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」  
http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/

RECRUIT

# 拓殖大学 VS 東京農業大学

4月27日(土)  
11:30K.O.  
法大G

前節で2勝目を挙げた拓大と、初勝利を飾った東農大との対戦。波に乗るためには、両チームにとって何としてもモノにしたい今節だ。

拓大は前節、法大に2-1と競り勝った。前半からお互いに攻め合い、法大のスピード感あふれる攻撃に押される場面がありながら、35分に先制点。セカンドボールをよく拾い、前線の3人にMF菅原慶人(3年)が絡んで攻撃を活性化させた。後半に入って5分の50分には、FW河野直登(3年)が思い切りの良いミドルシュートを決めて追加点。その2分後に1点を許したものの、その後は複数の選手が足をつけるほどの粘り強い守備で、1点のリードを守った。「後半は守備の厚みがあった。チャレンジとカバーの関係がよくなってきた」と玉井朗監督が話したように、攻め込まれながらも決定的なチャンスはそれほどつくらせなかった。攻守のバランスがとれてくれれば、安定した力を発揮できそうだ。

対する東農大は前節、首位に立っていた関学大に3-0と快勝し、待望の今季初勝利を挙げた。過去2試合とも試合開始直後の5分間で先制点を奪われたこと反省から、「まず立ち上がりをゼロで乗り切れば、自分たちの時間帯はくると話した」(木村俊夫コーチ)。先制され

ながら得点は奪えていたことから、まずは先に失点しないことを第一とした気持ちの徹底が功を奏し、34分に先制点、49分にもセットプレーで追加点を奪ってからは思い切りの良いプレーも見られ始めた。「相手チームの素早い寄せに戸惑い、受け身になっていた部分もあった」(秋吉保浩監督)。もともと先制する試合はあまり多くないようだが、最少失点に抑えていけば粘り強い試合はできる。拓大の攻撃をいかに抑えるかが鍵だ。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

拓大	東農大
24. 谷川	2. 大野
11. 内野	18. 今野
4. 菊野	15. 小田原
17. 末松	14. 石川
22. 河野	10. 浜田
1. 大坪	9. 相川
14. 菅原	30. 矢口
6. 小野	6. 中垣内
25. 紙谷	5. 櫻岡
9. 西岡	11. 井上
2. 西本	27. 加藤

# 駒澤大学 VS 関東学院大学

4月28日(日)  
11:30K.O.  
BMWス

連勝対決で東国大に敗れてしまった駒大と、東農大に完敗してしまった関学大、前節で初黒星を喫したチーム同士の対戦。いずれも連敗は避けたいところだ。

駒大は前節、東国大に0-1の敗戦。昨季の総理大臣杯予選での対戦は4-1で勝利していただけに、どこかに初顔合わせではない油断があったのかもしれない。関東リーグ初挑戦の相手に対し、押しながらの敗戦ではなく「完敗」(秋田浩一監督)。立ち上がりから相手の勢いに受け身となってしまい、90分でシュートを2本しか打たせてもらえなかった。「気持ちが入っていた相手に対して受け身になった。失点も、人はいたのに準備不足だったと思う」(秋田監督)。終盤は猛攻を仕掛けたが、リードを許した1点を守る相手DFを崩せずじまい。今季は2連勝と好スタートを切っていただけに痛い敗戦だが、切り替えて臨みたい一戦。第2節までに見せていた駒大らしい攻撃の形を見せられるかどうか。

一方の関学大も、3-0、4-0という無失点勝利の2試合のあと、東農大に0-3という完敗を喫してしまった。初めて先制点を許す試合展開に焦りを隠せず、2試合で見せてきた攻撃面の良い部分をまったく発揮できないまま敗れた。序盤は東農大のシンプルな組み立てを

防ぎつつ攻撃を仕掛けたが、34分にセットプレー崩れから先制点を許すと「早くゴールに向きたい、シュートを打ちたいと慌てて、プレーの判断がよくなかった」(石村大監督)。若いチームの脆さが出てしまった試合だったと言えるが、相手のストロングポイントであるセットプレーでの失点など「今日は完敗」(石村監督)。状況に応じた冷静さなどが今後の課題だ。

<昨年の対戦>前期/駒大3-1関学大、後期/駒大1-3関学大

駒大	関学大
3. 田中	6. 木村
11. 小牧	8. 山本
5. 伊藤	10. 橋村
7. 碓井	3. 土館
9. 小牟田	7. 太田
1. 大石	1. 守山
10. 山本	23. 長谷川
6. 若山	11. 萱沼
4. 平尾	4. 久保
17. 平野	9. 富樫
31. 鈴木	32. 吉田

# 法政大学 VS 東京国際大学

4月27日(土)  
13:50K.O.  
法大G

1勝2敗の法大と、12チームで唯一の3連勝を飾った東国大との対戦。3試合で1失点の東国大を法大がどう崩すか、また法大が東国大の鋭いカウンター攻撃を防ぐことができるかどうか。

法大は前節、拓大に1-2で敗れた。ゲームを組み立てる力があり、前半からFW鈴木貴大(2年)やFW松本大輝(4年)のスピードを生かした攻撃を見せたが、最後の局面で荒さが目立ち、決定的な形をつくり切れず。そのうち拓大にセカンドボールを支配され始め、35分に先制点を許した。さらに後半に入って50分には相手FWに見事なミドルシュートを決められ、その2分後によく1点を奪ったがその後は守り切られてしまった。「エンジンのかかりが遅いし、点を取られ過ぎ。点の取られ方、ボールの失い方が悪い」と大石和孝監督からはマイナスのコメントばかりだったが、今節はボール奪取能力に長け、少ないチャンスをモノにしてきた東国大が相手。先制攻撃をかけられるかどうか。

その東国大は前節、同じく2連勝の駒大を1-0で破った。第2節ではシュート3本で神大を破ったゲームとは異なり、駒大戦ではシュート数12-2。昨季の総理大臣杯予選では東国大相手に4点を奪っていた駒大に対

し、立ち上がりから勢いのある攻撃を仕掛けて相手の出鼻をくじいた。得点は53分だったが、駒大にシュートを1本も打たせなかった前半のゲーム展開は見事であった。後半は駒大の猛攻に耐える展開となったが、「CBがよく耐えてくれた」(前田秀樹監督)。攻撃も「セカンドボールを拾ってパスが通ればチャンスはあると思ったが、かなりシュートも打てた」(前田監督)と手ごたえも。序盤の快進撃が本物の東国大旋風となるか、注目だ。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

法大	東国大
23. 三田	2. 伊東
3. 岡	11. 高橋
27. 田代	3. 阿部
6. 星	10. 若井
18. 鈴木	23. 赤崎
21. 田村	15. 加藤
28. 西室	26. 佐伯
2. 宗近	5. 川島
9. 深町	17. 小玉
14. 松本	6. 鹿糠
8. 大野	

# 神奈川大学 VS 朝鮮大学校

4月28日(日)  
11:30K.O.  
三ツ沢

久々の2部リーグで白星を先行させた神大と、前節で今季初勝利を挙げ、徐々にムードが上向きになってきた朝鮮大との対戦。朝鮮大は失点を最小限に抑えたい。

神大は前節、平国大に3-1で勝利した。前半からボール支配率は高かったが、平国大の粘り強い守備の前に前半は無得点。しかし、平国大にシュートを3本しか許さず、細かなパス回しから相手の背後を突く長いパスまで幅広い攻撃を織り交ぜてゲームを進めた。前半に攻め切れなかった点は「シュートが少なかった。やり切ることが必要」(高峯弘樹監督)と反省しつつ、逆に守備の面で「相手ボールになったとき、空いている選手が何人かいたのでケアをするよう修正した」(高峯監督)と冷静な対応。59分の先制点後、ゴール前でのボール処理に手間取り同点弾を許したが、その4分後に勝ち越し点を奪った。途中出場となったMF伊東純也(3年)の2得点の活躍も目立ち、攻守とも安定感を見せている。

対する朝鮮大は、2連敗で迎えた前節、青学大を後半ロスタイムの得点で破った。連敗していたこともあり、相手監督に「勝負に対する準備で負けていた」と言わしめた積極的な試合運びを見せ、前半から主導権を握った。結果は2-1だったが、シュート数は13-3。青学大

のボール回しに対して厳しいプレッシャーを仕掛け、ボールを奪って攻撃につなげた。押しながらも決定力不足を露呈し先制点を奪われる展開となったことは課題だが、終盤の粘りで70分に同点とし、ロスタイムに決勝点。途中出場のFW周祐慶(4年)が2得点を決めた。「守備が機能し、相手に攻撃させないという部分はうまくいった。勢いが出てきたので連勝したい」(金載東監督)。逆転勝ちの勢いを持ち込めるか。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

神大	朝鮮大
3. 高木	24. 鄭壯輝
11. 星	12. 姜光
2. 柿崎	16. 韓勇俊
14. 芦野	22. 慎鏞紀
16. 前田	21. 康貴成
1. 松田	1. 李在根
7. 長野	14. 朴利基
5. 杉山	9. 高尚人
4. 向山	3. 李教俊
8. 須郷	17. 高志煌
6. 秋山	2. 李永照